TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健　報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信　NO.13　R5.10.01

学校 HP

文責　学校長　下村　昌弘

E-Mail　shimomura-masahiro@education.saga.jp

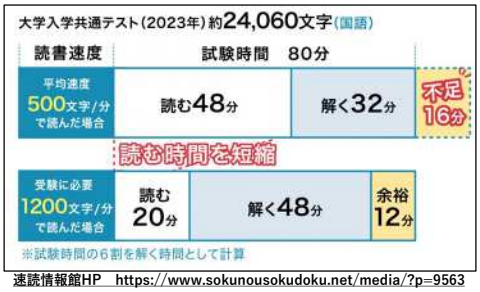
共通テストに思う　－速読の意識を－

昨年度実施の共通テスト問題。多くの教科で文字数が増加しています。

国語は約 3,000 文字増加。世界史 B ではなんと約 6,000 文字が増えました。数学も文字数が増加していますが、内容的には前年より取り組みやすかったようです。

文字数が増えたからと言って、即、難易度が上がるというわけではありませんが、やはり問題文を読むには一定の時間が必要ですし、読む時間がかかれば解く時間が少なくなり、心理的余裕もなくなってくるものです。

実際のところ、読む時間と解く時間を明確に区別することは現実的には困難なので、あくまで目安ということでしょうが、テストでは“解く”時間や“書く”時間に試験時間の 6 割が必要と言われています。



速読情報館HP　https://www.sokunousokudoku.net/media/?p=9563

ところで、日本人の平均読書速度は 1 分間に 500～600 文字。昨年度の国語の文字数は約 24,060 文字なので、読むだけで約 50 分かかることになります。試験時間は 80 分間なので残りは 30 分くらいです。

逆に先ほどの“6 割”の考え方を当てはめると“解く”時間として 48 分が必要ということになり、平均的な速度で問題文を読んだ場合、計算上約 20 分が不足することになります。(右・上グラフ)

ですから、試験では通常読むスピードよりもうんと早い速度で読み進める必要があるわけです。ですからある意味、速読の練習を積み重ねる必要もあると言えるでしょう。

新聞のコラムは約 550 字から 600 字くらいですから普通のスピードだと 1 分くらいですが、試験バージョンでは 30 秒くらいで読む必要があります。はじめは大変かもしれませんが、夕食後にでもゲーム感覚で毎日やってみたらどうでしょう。なれれば大したことはありません。新聞がなければ新書を使ってもいい。

いずれにしても時間を決めてその中で問題を解くという意識が緊張感を生み、その緊張感が集中力を高めます。ただし、いたずらに時間ばかりを気にして表面を撫でるような勉強に終わってはいけません。あくまで深くじっくり、そこにスピードです。

3 年生の皆さん、これからはトライ＆エラーの繰り返しですね。試験の連続で大変でしょうが目的をもって一問一問に誠実に向かってください。1・2 年生の皆さんは“探究の姿勢(深くじっくり)”をこれからの授業や総合的な探究の時間・課外活動で鍛えてください。

探究活動真っ盛り　－まちづくりに関して小松市長に政策提案－

9 月 29 日（金)、武雄市役所にて、①「高校生のまちづくり参画事業」(武雄市との協働)の報告会と②「さが未来発見塾」(佐賀新聞社主催）の未来計画提案会とが合同で開催されました。取組概要は以下のとおりです。

① 「高校生のまちづくり参画事業」(武雄市との協働）…1 年生計 20 名が 3 チームで活動

Aチーム…「防災」豆知識をリーフレットにまとめ、その内容を放課後児童クラブで実演。また、西九州新幹線１周年イベントに出展しリーフレットを配布するとともに防災缶バッチ作成のワークショップを開催。

Bチーム…観光客に武雄の名所を知ってもらうため、市内５か所を巡るスタンプラリーを考案。スタンプや台紙を製作し、西九州新幹線１周年イベントで配布。景品も用意し、たくさんの人たちに観光地の回遊を促す。

Cチーム…子どもたちに武雄のことをより知ってもらうため、観光を取り入れた劇を創作。各観光スポットでの取材をもとにパペット（操り人形）と観光地の写真を組み合わせた紙芝居に仕上げ保育園で披露。

② 「さが未来発見塾」（佐賀新聞社主催）の未来計画提案…2年生16名

ワークショップや取材活動をとおしてまちの魅力や課題を整理分析し、「こういう“まち”にしたい」という未来計画を作成し小松政武雄市長に提案。

提案書のタイトルは「TAKE OUT」。ここには武雄（TAKEO）をUniversal Town（世代や国籍を超えた街）に磨き上げて、その魅力をお持ち帰りいただくという願いが込められている。

具体的には「観光客が訪れたいまち」「市民が暮らしやすいまち」「観光客も市民も楽しめるまち」という３つの柱。（詳細は新聞に掲載予定）

小松市長からは「“高校生ガイド”や“防災意識日本一”などびびっと来るものがあった。大いに参考にしたい。また新幹線と高校生の距離をどう縮めるか問題提起をもらった」と御高評いただくとともに「いわゆる“街中”だけでなく中山間地域にも目を向けて」「今回学んだ“情報収集→課題整理→目標設定→課題解決”という探究の型をこれからの学びや将来の仕事にも生かしてほしい」と激励していただきました。

“魅せろ、輝け　佐賀んもん！”　－県総文祭で標語表彰－

2年生の松浦圭祐さんが第35回佐賀県高等学校総合文化祭の大会テーマとして「魅せろ、輝け　佐賀んもん！」を考案し見事一席として採用されました。

9月29日の開会式でポスター原画を制作した生徒さんとともに表彰を受けました。ちょっとしたひらめきがいい言葉としてまとまったようです。歴史に残るいい“仕事”ですね！

県総文祭は9月中旬から11月中旬まで佐賀市内を中心に14部門で開催されます。機会があればポスター（右上）で日時と場所を確認しぜひのぞいてみてください。

【当面の主な予定（10月前半）】
1日（日）全統マーク（3年）
2日（月）月セミ（1･2年）
3日（火）人権同和教育講演
10日（火）中間テスト（1･2年）
最終考査（3年）13日まで
14日（土）駿台模試（1･2年）
進研記述模試（3年）

（閑人閑話）

「グランドを見ればそのチームのレベルが分かる」。本校バックネット裏に書かれていた▼夏の甲子園、慶応高校が仙台育英を破って百七年ぶりの優勝。長髪、相手のファインプレーに拍手を送る、特別支援学校との練習にも時間を惜しまない。話題の多いさわやかなチームだった▼本校生徒さんの中に武高坂をあがってくる車に向かって会釈をする人が出てきた▼多分この学校はもっとよくなる（昌）